

◎チェルノブイリ救援・中部では、戸別訪問による募金活動は一切しておりません。不審なカンパ要請には充分ご注意ください。

ポレーシエ

・・・チェルノブイリに思いをよせて

チェルノブイリ救援・中部 事務局から 1993.7. 5 No.18

ドミトリー君名古屋空港に到着

～杉田眼科でただちに診察へ～



左端から：
母親リュボフさん
ドミトリー君
通訳ナターリアさん
杉田先生

前回お知らせした失明寸前といわれていたウクライナ・キエフのドミトリー君（12才）が、母親とともに6月29日（火）午前10時30分着のアエロフロート機で無事名古屋空港へ到着しました。ドミトリー君は、到着後すぐ平田國夫医師（平田眼科・春日井市）の仲介で全国的にも実績のある杉田眼科（名古屋市内）に診察治療のため直行しました。

ドミトリー君は、チェルノブイリ原発事故後、目のガンとも言われるコーツ病にかかり、すでに右目は失明し左目も失明の危機にあると言われていました。救援の呼び掛けを知ったチェルノブイリ救援・中部では、当初日本で来日しての治療効果が実際にあるのかどうかを現地の救援窓口ジトミルスキー・ヴィスニーク新聞社を通じて調査していました。そしてその後取り寄せたモスクワとキエフでのカルテを検討し、招待することに決定していたものです。

精密検査の結果、幸い現地のカルテに言われているような左目の悪化はないことがわかりました。右目についてはさらに悪化する恐れがあるため、治療を行なうことになりました。

石棺を閉じた男たち 講演会のお知らせ

これまで大きく騒がれながら光が当てられることがなかった事故当時の模様をウクライナ共和国ジトーミル州から事故直後汚染除去のため参加した消防士2人を日本に招待し、各地で講演会を行います。チェルノブイリ原発の除染作業者が来日するのはこれが初めてです。共通入場券（1000円）の販売は7月15日頃救援・中部事務局および各地窓口で開始します。

○講演者プロフィール：

アントニウク、レオニード・オレクサンドロヴィチ：

1986年5月5日から9日までチェルノブイリ原発の事故炉の下から水をくみ出す仕事について。ジトーミル州消防部長代理。34才。



オチュカノフ、ワレーリー・ステパノヴィチ：

1986年5月5日から20日まで事故を起こした原発敷地内およびプリピャチ河貨物港で放射能汚染除去作業に従事。また莫大な放射線をあびた運転手になって消防自動車を運転。



○入場料 一枚1000円（各地共通・中学生以下無料）

注：入場券郵送希望の場合は、入場料+62円を救援・中部の下記口座まで「入場券希望」と明記してお振込下さい。

○入場券等の申込みは 郵便振替 名古屋8-108610
口座名 チェルノブイリ救援・中部
または各地窓口でも販売しています。

○講演会予定と各地の問合せ先：

8月21日（土）名古屋市 河合塾体育館（千種駅）午後1時半～

問合せ先：チェルノブイリ救援・中部（最終頁参照）

〃 22日（日）浜松市 青年婦人会館 午後1時半～

問合せ先：高井信行 TEL.053-435-1419

〃 25日（水）岐阜市 岐阜市文化センター 午後1時半～

問合せ先：清水ひとみ TEL.0582-37-7334

〃 26日（木）伊那市 伊那勤労者福祉センター 午後6時～

問合せ先：小牧 崇 TEL.0265-73-6103

〃 28日（土）沼津市 暁秀初等学校ホール 午後1時半～

問合せ先：中島光子 TEL.0559-73-5967

○主催：チェルノブイリ救援・中部

（実際の実施は、チェルノブイリ救援・名古屋、チェルノブイリ救援基金・浜松、チェルノブイリ救援・岐阜、大垣ムラサキツユクサの会、伊那実行委員会などが担当しています。）

○後援：中日新聞 名古屋市教育委員会、愛知県教育委員会 ほか

○協力：NHKほか（以上6月末現在）

夏休みにあなたの一日を
カンパしてください

7月から8月末まで、ドミトリー君来日治療、医師研修、講演会、写真展と全ての催事をチェルノブイリ救援・中部のスタッフが主催します。これだけの催し物が集中するのは初めてです。私達だけの手ではとても足りません。あなたの一日をカンパしてください。助けていただきたいのは次の日です。会場準備、場内整理や受付などが主な仕事になります。

「石棺を閉じた男たち」講演会・・・各地の講演日（2頁参照）

写真展・・・場所：愛知県芸術総合センター 8月16日～22日

協力していただける日がありましたら救援・中部までご連絡を

電話：052-836-1073（月・水・金 10:00-15:00）

屋外は1200レントゲンあった

・・・火災担当の指令官は、市民防衛隊幹部から現在の（チェルノブイリ原発の事故）状況についての情報を求めた。それによると門を閉めた状態でも毎時70レントゲンあり、消防車が置かれる外は1200レントゲンある。云うなれば本当に（放射能による）蛍光が見えるほどだ。ソロコフ指令官の話によると5人の運転手が車で行き水をくみあげ、20人の兵士が1.5キロメートルにわたってホースを置くという手はずだった。・・・我々は武装した車の後について中央入り口に入った。それに続いて我々は前に事務員たちがいた地下壕におりて来た。



その時はコンクリートの床に10脚のイスが置いてあった。医師は我々に錠剤を与えてできるだけ多くのアルコールを飲むように言った。我々は原子炉に向かった・・・

以上 現地のチェルノブイリ特集英文誌「CHOLNOBYL'S HOSTAGES No.1」から
来日予定の消防士アントニューク氏のインタビュー記事より抜粋

（この特集誌は、現地新聞社が製作。救援・中部で販売中 1冊500円 No.1～4までである。）

同時開催写真展「核の目撃者たち」

～広河隆一・豊崎博光写真展～

日時：8月17日（火）～22日（日）

場所：愛知県芸術文化センター12階 アートスペースG・Hにて

入場：無料

解説：広河隆一・豊崎博光・・・二人は世界の放射能被害を追い続ける現代を代表するフォトジャーナリスト。300平方メートルの会場に二人の写真家の迫力ある写真を一同に展示します。広河さんは、チェルノブイリ子ども基金の代表でもあり、精力的に救援物資を被災地に送る活動も行っています。

講演会協賛団体募集

今夏の講演会の運営費不足のため、協賛団体を募っています。
協賛金は1口1万円で、協賛いただきますと当日配布チラシ
に協賛団体名を入れさせていただきます。

***近刊のご紹介 「たった一回の原発事故で」

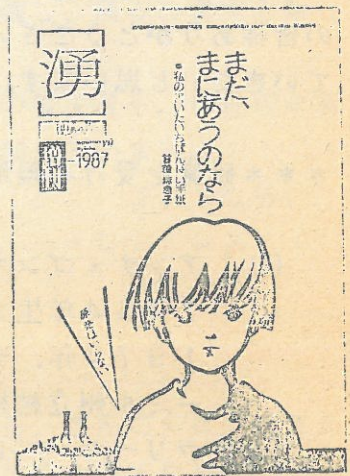
～ウクライナの母たちからの手紙～***

「チェルノブイリからの107通の手紙」が、地湧社より出版されることになりました。107通の手紙は、90年暮れに救援・中部と現地救援窓口のジトミルスキー・ヴィスニーク新聞社が共同で、日本と原発事故被災地の母親との心と心を結ぼうと文通を呼びかけ、その結果救援・中部に現地から母親の気持ちを訴える手紙が沢山送られて来ました。この度これらをまとめ本として出版することとなったものです。1冊515円で7月20日ころ発売される予定です。ご注文の方は、515円に送料を51円を添えて地湧社まで。また2冊目からは1冊につき10を加算し、10冊以上は、送料サービス。50冊の場合1割引き。100冊以上は、2割引きとなります。

尚、地湧社はかつてベストセラー「まだ、まにあうのなら」を出版しました。

地湧社：郵便振替口座 東京2-36341

東京都千代田区神田東松下町十二番一号（ミトモ第二ビル）



地湧社刊「まだ、まにあうのなら」表紙

手紙集解説から.....

このような被害は、まるでチェルノブイリとその周辺の旧ソ連の共和国だけと思いがちですが、当時ヨーロッパや日本など北半球を放射能は覆いました。日本で事故後降った雨水が食品の輸入基準を越える汚染がされていたことは新聞でも騒がれた通りです。しかし科学技術庁が空気や雨水の調査を打ち切った後、植物などに放射能が濃縮されてさらにその7、8倍にも汚染されていた事実はあまり知られていません。そして私達はそれらを食べ物を通じて既に体内に入れてしまったのです。.....

医療研修先すべて決定

～協立総合病院と大阪医大、愛知医大で～

これまで各医療機関の皆様にウクライナ医師3名の研修受け入れをお願いしていましたが、この程ようやく研修先が3名全員について決まりました。

女性医師のアンナさんとラリーサさんは協立総合病院で、麻酔専門のイワン・レスノイさんは大阪医大と愛知医大のペインクリニックで受け入れて頂けることになりました。協力を申し出て下さった医療機関の皆様ありがとうございます。

またこれまで各地でこの研修受け入れについてご尽力頂いた方々、各医療機関の皆様ありがとうございます。被災地と日本の交流という点からもさらに続けていきたいと思えます。どうぞご協力下さい。

研修を受ける現地医師のプロフィール

(1) アンナ・ゴンガルスカさん (女性)

1954年生まれ。専門は内科、心臓病。

1977年、チェルノビツキー医科大学で博士号を受ける。現在ジトーミル州立結核療養所の治療部門主任。

(2) ラリーサ・ブレドネヴァさん (女性)

感染症。ジトーミル市立第一総合病院勤務。著書あり。

肝炎等について診断研修を希望。

(3) イワン・レスノイさん (男性) (本人のメッセージ次ページに掲載)

麻酔学。ジトーミル市立癌診療所勤務。麻酔について研修を希望。

滞在研修期間予定：8月2日(月)～9月2日(木)

*** ボランティア預金1265万8千円交付 ***

今年のボランティア預金に今度の医療研修費用を含めて提出したところ申請が一部認められました。

チェルノブイリ救援・中部への交付金は合計で12,658,000円でした。項目は、1. 超音波診断装置の購入費、2. 使い捨て注射器購入費、3. 医薬品購入費、4. 現地医師研修のための交通費滞在費です。

ただしこの救援物資送付などに関わる事務運営費は含まれていません。

声・声・声 ～現地からの手紙～

来日予定の医師から

チェルノブイリの劇的な事故で被害を受けた人々に大きな救援をして下さる、チェルノブイリ救援・中部の読者とメンバーに心から感謝しています。あなた方の救援は物質的な面ばかりでなく、精神的な点でも非常に重要です。それは今日の方が以前よりもはるかに重要です。私はこれまで使われたお金は決して無駄には費やされていないと信じています。

私は皆様の組織に感謝の言葉を述べることができるととても嬉しいです。私は慢性的な痛みの分野における知識を深め、伝統的方法を勉強し、痛みの管理の新しい技術や薬についての知識を得たいと思います。(略)

私はこの特別な医療研修を終えたら、チェルノブイリの被災者や、慢性的な痛みを持つ人々を治療するために、私の能力を使いたいと願っています。

さようなら。

イワン・レスノイ

移住した家族から

親愛なる日本の「チェルノブイリ救援・中部」の友人達、こんにちは！皆さんが私達のためにして下さっている事にたいして感謝の気持ちを表すために、どんな言葉もみつからないほどです。

私達の家族はチェルノブイリ原発事故の被災地のゾーンにあるコーラステン市に住んでいました。2才の息子はいつも病気でした。私達は、こんなに早く汚染していない地域に移住して自分の家に住み、資格のあるお医者さんに治療してもらうことができるようになろうとは思ってもいかなかったのです。何故これが可能になったかと言えば、「チェルノブイリ救援・中部」からいただいたお金で、移住基金が私達に家を買ってくれたからです(部屋は三つ、台所、バスルームがあります)。私達は毎日、神が皆様にご健康と幸運を下さるようにと祈っています。私達の祈りは、私達の為にお金を集めて下さったすべての日本人に対する祈りです。皆様を抱きしめさせていただきます。

エレナ・ストレポーヴィチ

1993年4月8日

ジトームル市

事務局維持会員入会のお願い

チェルノブイリ救援・中部では、膨大な事務作業をこなすために昨年3月に事務局を開設しました。長期の救援を行うために皆様の維持会員を募っています。今年もさらに救援活動が続けるため入会をお願いします。

◎維持会員入会費 10,000円/年 (または1000円/月)

郵便振替口座：名古屋8-108610

(*通信欄に必ず維持会員申込みと記入して下さい)

＊＊お知らせとお願い＊＊

- ・今度のポレーシェは、ドミトリー君来日、医療研修、講演会実施など催しが今月後半以降に集中しているため通常よりも発行を早めにさせていただきました。
- ・ポレーシェを読んでくださる皆様の宛名を一部変更させて頂きました。
前回号より二重の送付をなくすため宛名管理を統一し、宛名の表現を文字数等の制約から一部変更しました。まだ未整理のため失礼な表現があるかもしれません、ご了承ください。また重複配送、宛名の誤りがありましたらお手数ですがお知らせ下されれば幸いです。
- ・「たった一回の原発事故で」(救援・中部 編)が地湧社より発売となります。ご希望の方は地湧社または救援・中部まで。詳細は5ページ参照。
- ・救援金をお寄せいただいた方には全て事務局より領収書を送らせていただいております。振込用紙に住所氏名等を明記ください、もし領収書不要の方は振込用紙の通信欄にその旨お書きくだされば幸いです。
- ・被災地の家族や子供たちから届いた沢山の手紙や絵が「絵はがき集」になりました。1セット5枚で300円です。救援・中部まで直接お申込みください。
- ・チェルノブイリ救援・中部のテレフォンカード 一枚1000円50度数。
- ・現地ジャーナリストのネチポレンコさんおよび小児科医師ライサさんの来日講演録全文。専門家の解説つき 一部350円。
- ・「とどけウクライナへ 私たちの救援日誌」(坂東弘美著 八月書館) 定価1648円 書店または救援・中部までご注文ください。

チェルノブイリ救援・中部(郵便振替口座 名古屋8-108610)

事務局 〒466 名古屋市昭和区楽園町137 1-10

TEL.FAX:052-836-1073 (月、水、金曜日10:00-15:00)

代表：長谷川三知子

(問い合わせはなるべく郵便で、できれば切手を添えた封筒を同封してください)